

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年 3月16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1672100151		
法人名	医療法人社団 寿山会		
事業所名	グループホーム福光ほほえみの家		
所在地	富山県南砺市法林寺424		
自己評価作成日	平成28年2月17日	評価結果市町村受理日	平成28年4月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成28年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「地域との交流を大切にし、心豊かな生活環境を目指します」「入居者の想いに寄り添い、季節感を感じながら生活出来るようお手伝いします」を運営方針に掲げ、入居者の日々の生活を見守り、入居者の家族の方と共に、ケアにかかわりを深めていきたい。併せて地域社会との交流を継続していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は、利用者に親しみをもち笑顔で接し、家族と共に暮らしを見守り、サービスの質が高まるように努めている。季節感を持ってもらうため、折り紙で雪だるまを作ったり、ねこやなぎや桜など季節の花を飾り、和やかな雰囲気をつくっている。また、地元の老人会への加入や小学校と相互に行き来する関係をつくり、地域との連携や交流に取り組んでいる。併設のクリニックと医療面での連携を図り、利用者や家族の安心に繋げている。
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホーム福光ほほえみの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が常に基本理念である「和顔愛語」を念頭におき、日々の業務の中で実践している。又、地域住民との交流・地域活動へ積極的に参加し、地域と事業所の継続的につながりを大切にしている。	勉強会などで理念の確認をし、職員間で共有している。また、業務に入る前に理念を念頭に置き、気持ちを切り替えて、理念の実践につなげるように心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として、利用者全員が石黒老人クラブに加入し、老人クラブ主催の敬老会・そくさい会・かたろまいけ等の行事に参加している。又、小学校の行事にも招待され参加したり、小学生の学習訪問や慰問もあり、近隣の住民とふれあう機会を大切にしている。	利用者全員が地元の老人会に加入し、毎年、展示会に大作のちぎり絵を出品し、地域の人達から大変喜ばれている。地元の講師による「習字教室」の作品をリビングや居室などに貼り出したり、また、小学生が総合学習の一環として訪問し、ふれあいの時間を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加する事により、地域住民に病気としての認知症の人への理解や接し方を伝え、自然と認知症に対する理解の輪を広げる様に深めてもらう。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回会議の目的・グループホームの定義・理念・行事報告・説明や現在の状況への取組みの内容も報告し、参加いただいている方々の意見や助言を頂き、今後のサービスへとつなげている。	家族には事前に年6回の開催予定日を案内し、毎回の参加を呼びかけている。会議では地域からの情報提供を受け、事業所の活動報告を中心に話し合うなど、情報や意見をサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、南砺市厚生部地域包括課や地域包括支援センターの方々にもメンバー参加していただき、入居者の日々の生活の様子や課題となっている事を伝え、意見や助言を頂き連携を深めている。	市担当者から研修方法やボランティアの受入についてアドバイスを受れたり、グループホーム連絡会に参加し、市主催の「ほっとほっと安心カード」の取組みなどについて連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>利用者の日々の様子を観察し、屋外へ出たそうであれば止めるのではなく、さりげなく声がけしたり、付き添って危険がないよう見守り支える様にしている。又、併設の介護老人保健施設福光あおいと合同勉強会に毎月参加し「身体拘束ゼロ」を目指して、周知徹底に努めている。</p>	<p>併設の介護老人保健施設と合同で毎月研修会を開催している。研修会では、プロジェクターを使い、身体拘束や言葉による拘束について話し合い意識の共有を図っている。不適切な言葉がけには、その場で振り返り注意し合うなど、抑圧感のない暮らしの支援に取り組んでいる。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティングやカンファレンスなど職員間で意見交換を行ったり、合同勉強会に参加し学び周知徹底に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>年1回は「権利擁護に関する制度」に係る合同勉強会を開き・学び、職員の理解を深めるようにしている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約締結時には、その内容について管理者や介護支援相談員が丁寧に説明を行い、理解し納得を頂いたうえで、契約を締結したり、同意書に署名・捺印をいただいている。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族が気軽に意見を伝えられる様な雰囲気づくりに留意し、面会時や運営推進会議に出席の際には意見や要望を聞く場を設けたり、会議での発言を促したりして、事業所内で共有化し業務や運営に反映している。</p>	<p>家族の訪問時などに気軽に意見を話してもらうことや、運営推進会議に出席してもらえる雰囲気づくりに留意している。また、利用者からのひな祭りの食事希望など、出された意見については、運営に反映させている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンス・日頃のコミュニケーションを通して、報告・相談を随時行っている。又、ミーティングでは、ざくばらんに話し合えるような機会（例えば食事会など）を作り、個々の思いを全体で把握・共有出来るようにしている。	毎日の申し送り時の連絡ノートなどを活用し、職員から意見や提案を聞くように努めている。また、毎月のカンファレンス時には、職員が各々自分の意見を述べ、運営に行かすように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の疲労やストレスの要因について気を配り、勤務時間中にも気分転換できる独立した休憩室を設けてある。又、職員同志の人間関係を把握したりしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会への参加の徹底、外部研修会への受講に最大限協力している。又、外部研集会報告書は全職員回覧とし、情報の共有化を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	南砺市地域包括ケア会議や南砺市グループホーム連絡会に参加し、情報交換などを行い、サービスの質の向上に努めている。又、法人内のグループホーム事業所とも情報交換などを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問にて、利用者・家族の要望やこれまでの生活環境の把握に努め、その人らしい生活を維持し安心して暮らしていける様に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前訪問をし、本人を含め家族の思いや求めている事や知りたがっている事などを把握し理解に努めている。又、そこで得た情報は入居されるまでに職員で共有し、今後の対応に生かし信頼関係の一步としている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者等は、介護支援相談員と共に事前面談を行い、利用者やご家族の思いや状況等を確認し、可能な限り柔軟な対応を行なう様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する・されるという意識を持たず、暮らしを共にし支え合いながら生活できる様な関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がほとんど関わらずに入居者をグループホームに預けっぱなしの場合には、法人として退去基準となる事を踏まえての対応で臨んでおり、家族にもこの事を十分説明し理解してもらい、訪問回数であったり行事への参加・運営推進会議への出席をお願いしているが、参加が少なく苦慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	一人ひとりの状況に寄り添った介護を目指している。美容院なども出来るだけ家族の協力を得て昔から行き付けのお店に行ってもらっている。友人・知人等の訪問を積極的に受け入れている。	利用前にお世話になっていたホームヘルパーや知人などの訪問があり、思い出話を懐かしんだり、地元の南砺菊まつりなどに家族の協力を得て出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役になり、支援して情報を共有して朝刊の取り合いや入浴順などのトラブルを未然に防いだり、ゆったりとした時間や空間を作っている。利用者同士の席配置にも十分留意している。朝刊も複数用意しトラブルが起きない様に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	アセスメント・ケアプランや支援状況等をご家族に渡し、情報交換を行っている。機会があれば様子を見に行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活のなかで、寄り添いながら思いや希望を聞き取ったり、汲みとったりして、ケアプランに活かして実践につなげている。又、ご家族にも意向を伝えつつその思いも聞き参考にしている。	日頃から、利用者の言動に共感し、本人の思いを受け止めながら、暮らし方の希望などを聞いている。また、例えば、不安そうな様子が見られれば、その要因を職員間で考え、思いや意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に入居前後の生活背景を出来るだけ記入してもらい、利用者が安心して生活出来る支援を行える様にしている。 (フェースシートへの記入)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主にリーダーと夜勤者は記載する「一日の様子」用紙に利用者個々の生活リズムが把握できる様になっており、全員で確認する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回カンファレンスを行っている。又、問題が発生した時点でも直ぐカンファレンスを行ない対応をしている。家族には面会時等に近況報告をして、意見や希望を聞いて対応している。	利用者の体調や意欲の変化などに合わせ、毎月のカンファレンス以外にも、随時、職員間で話し合い、また、家族からの提案も取り入れて、本人がより良く暮らせるような介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個別にファイルを用意し、ケア記録に記載し、職員間の情報共有をしている。個別記録を基に介護計画の見直し・評価を実施している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の状況に応じ、買物や定期受診等は希望に沿って臨機応変に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では、地元自治振興会長・自治会長・老人クラブ会長や民生委員の方々に参加をいただいている。又、老人クラブの役員の方々にもお世話になっている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の福光あおいクリニックを主体として、週1回の定期受診で健康管理をしていただいている。又、急変時には往診もしてもらっている。主治医が他の医療機関の利用者も支援している。	隣接の福光あおいクリニックでの定期受診や往診を受けている利用者がほとんどで、医療面の安心につながっている。また、総合病院で定期受診を受けている利用者については、医療情報を適切に共有し、連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行える様にしている。又、看護職員不在の時間も確実に連携がとれる様になっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の支援方法について家族と相談して介護サマリを提供して近況を伝えている。退院前には相談員と共に情報交換し、かかりつけ医とも協力して受け入れ態勢を整えている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえつつ運営の法人指針を説明し、ターミナルケアを行わない事を事前に承諾して頂いている。重度化の場合にも事前に家族と話し合い承諾を得て、医師と相談してしかるべき医療機関へ転院してもらっている。	法人として、グループホームの場では看取りを実施しないことを入居時から家族などに説明している。本人の体調に変化があれば、医師の意見をもとに家族などと話し合い、医療機関への入院、他の福祉施設への転居などについて方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の方針として、職員全員が普通救命救急講習会を受講・再受講して実践力を身に付けている。マニュアルを整備し周知徹底を図っている。又、合同勉強会等で対応や実践訓練も行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、火災避難訓練を通常体制と夜間想定体制の年2回実施している。その訓練には地元自治会より2～4名の参加協力を得ている。1号館は崖崩れ注意地域に指定されているので留意している。	日中と夜間の火災を想定しての避難訓練を年2回実施し、その際には、地域の人達にも参加してもらっている。また災害マニュアルの見直しや、併設の介護老人保健施設福光あおいとの連携に取り組んでいる。	今後は、火災以外の災害、例えば土砂災害などの対策を講ずることが期待される。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の年長者として敬意を払い、日頃の対応においても本人の気持ちを傷つけないよう支援している。又、安心して生活出来るよう言葉がけに努めている。プライバシーにかかわる言動を慎み、全職員で確認と改善を心掛けている。	職員は、年輪を重ねた利用者一人ひとりに相応しい対応をするように心がけ、信頼と安心を提供する場として、利用者的人格とプライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に声がけして意向を尊重し、意思表示が困難な方には表情や反応を見ながら対応している。又、複数の選択肢を提案して、出来るだけ自分で決める事が出来る様になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調等に配慮しながら、焦らず利用者のペースに添って生活できる様にしている。その日その時の利用者の気持ちを尊重して、出来るだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて支援し、化粧やおしゃれを楽しんでもらっている。理美容は、併設の介護老人保健施設福光あおいでの訪問理容サービスを利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは嗜好調査等を参考に併設の介護老人保健施設福光あおいの管理栄養士と相談しながら作成している。お寿司の日や行事食も取り入れている。食事の後の食器拭きのみ協力してもらっている。	法人内の管理栄養士が、利用者の嗜好などをもとに、バランスの良い献立を立てている。また、節分の日には、恵方巻の行事食など、目先を変えたメニューを楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調を把握しながら、食事量や水分が取れる様に支援している。又、利用者が好きな物を家族にお願いして持って来てもらったりしている。栄養摂取では、管理栄養士のアドバイスも受けたりして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた声かけやうがい薬やポリデント消毒等の口腔ケアを実施しており、義歯の管理も支援している。口腔内の不都合があれば、協力医院の往診にて対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりのリズムに合わせて、さりげなく付き添い、見守り、声かけを行い自立を支援している。パッド類は時間帯や個々に合わせてその都度検討して対応している。	家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、トイレへの声かけなどもさり気なく行い、羞恥心を取り除くように努めながら、排泄の自立につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、軽体操・水分補給（牛乳等）・繊維質の多い食材を提供し、自然排便を促すための工夫をしている。又、医師と相談しながら投薬コントロールも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回実施しているが、利用者の当日の体調や希望を勘案しながら実施している。足浴やシャワー浴の事もある。利用者の負担にならないよう支援している。入浴剤を入れたり、冬至には柚子湯を楽しんでもらっている。	心身共にリラックスできる場として、気持ちよく入浴してもらえるよう、着替えの準備から楽しめるように声かけし、また、利用者が納得できるような入浴順の決め方にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、気持ちよく眠りにつける様に配慮している。又、医師と相談し、眠剤で調整し安眠につなげる様にしている方もあるが、日中の活動の妨げになっていないか確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬材情報をファイルに保管し、全職員が見て対応できる様に徹底している。又、薬剤師より個々の薬について職員と一緒に説明を受けている。又、看護職員・医療機関（福光あおいクリニック）との連携を図る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう食事作り・干し柿作り・畑作業・洗濯物干し・洗濯物たたみ等その人に合った作業を提供している。生花・書道教室、貼り絵、パズル、塗り絵など好きな事を無理強いせず声がけしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	福光地域での行事には皆で出来るだけ参加している。小学校行事にもボランティア委員会からの招待で参加している。又、利用者の希望を取り入れたり、運営推進会議の場で家族に協力をお願いしたりしている。	事業所の周りには、桜や椿、紫陽花などの樹木を植え、四季折々、散策を楽しめるように工夫している。また、利用者全員が地区の老人クラブに加入し、「そくさい会」や「かたろまいけ」などの行事に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の承諾を得て、小額のお小遣いを預かり、欲しい物を買う時に利用者個々の財布から支払できる様に支援している。お小遣いの収支については家族に確認をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話を設置しており、自由に掛ける事が出来る。自分で掛ける事が出来ない利用者には個々に支援している。両替支援も行っている。又、遠方の家族・知人などへの手紙などは職員が投函している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所の周辺にある花（椿・紫陽花など）を一緒に取りに行き生けてもらったり、季節感のある折紙作品を掲示している。居室毎に温度計を設置して室温管理や採光などに配慮している。又、テレビの音量に配慮してコードレススピーカーシステムを取り入れて難聴者に配慮している。風邪予防対策として、冬季間は加湿をして湿度管理をしている。	散歩中に摘み取った椿の花を生け、季節感を取り入れた家庭的な雰囲気をつくったり、温度や湿度、採光や音量などをこまめに調節し、安心と快適さの中で共同生活を送ることができるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居室にソファや畳みベンチを配置して、いつでも利用者同士が会話できる様にしている。又、一人になれる場所でもある。1号館入口にはベンチが置いてあり自由に使える。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前オリエンテーションで本人の使い慣れた筆筒などの家具類や思い出のある物、アルバムなどの持込をお願いして、温かい雰囲気が出るように努めている。又、高さ調整が出来るベッドを設置して座り易くしている。	家族と共に利用者の暮らしを見守ることを大切に、思い出深い置物や、孫やひ孫が一堂に会した記念写真などを持参してもらい居室に飾っている。また、使い慣れた筆筒などの配置も、利用者の状態に合わせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・廊下・トイレ・浴室などの出入り口には手摺りを設置しており、利用者は安全に生活し易いようになっている。利用者の状況に合わせて自立支援につなげる様に配慮している。又、トイレは3箇所設置して利用者に配慮している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 GH福光ほほえみの家

作成日 平成28年 3月28日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策で、火災に関してはマニュアルの作成・訓練の実施はしているが、地震・土砂災害時のマニュアルはあるが訓練をしていない	地震・土砂災害(急傾斜地崩壊)を想定して訓練を実施する	火災災害とは別に、年1回は地元住民の協力を得て訓練を行いたい	1ヵ年
2	19	本人と共に支えあう家族との関係について、法人の方針である「利用者を職員と家族が共に介護する」とつねに家族に呼びかけているが、理解の薄い家族もある	もっと参加できる若しくは参加しなければならない仕組みの構築を図る	年6回の運営推進会議や3～4回催される家族会の参加一覧表の掲示 ※年間半分は参加してもらいたい	1ヵ年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。